

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成30年12月28日

協議会名: 中野市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
長電バス株式会社	立ヶ花線 中野駅⇔立ヶ花駅	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を行った。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを公表した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…25.0人 実績…21.5人	・JR駅と市街地とを結び、主に通勤・通学時に必要な路線として運行しているが、沿線沿いの利用者の減少が目標を達成できなかった原因と思われる。 ・利用者は微減してきていることから、引き続き広報等を通じPRに努めるとともに、目標値やダイヤの見直しについても検討する。
中野市	ふれあいバス間山線 温泉公園⇔市役所	・利便性の向上及び定時制の確保を図るため、H29年10月にダイヤ・運賃等の見直しを行った。 ・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを公表した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…15.0人 実績…19.5人	・H29年10月にダイヤ・運賃の見直し(倭・科野地区との乗継割引)、H30年10月からは一部ルートの変更を行い運行している。また、新規利用者の確保を図るため、期間限定で月2回の無料デーを実施している。 ・目標を達成しているが、無料デーをきっかけに、引き続き広報等を通じPRに努める。
中野市	ふれあいバス倭・科野地区 岩井東⇔市役所	・利便性の向上及び定時制の確保を図るため、H29年10月にダイヤ・運賃等の見直しを行った。 ・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを公表した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	C ・事業が計画に位置付けられた目標を達成しなかった。 【1日あたり利用者数】 目標…10.0人 実績…7.5人	・H29年10月にダイヤ・運賃の見直し(間山線との乗継割引)、H30年10月からは新規利用者の確保を図るため、期間限定で月2回の無料デーを実施している。 ・H29年10月の見直しに伴う大幅なダイヤの変更により、利用者が減少したが、無料デーをきっかけに、引き続き広報等を通じPRに努める。
中野市	ふれあいバス豊田地域 三俣⇔上今井	・ダイヤ等の見直しに向け、地元区との協議、説明会を行った。 ・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布や小学生を対象とした「バスの乗り方教室」等を開催した。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを公表した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…3.0人 実績…3.2人	・目標を達成してはいるが、ふれあいバス3路線のうち、最も利用者が少なかったことから、H30.10月に大幅なダイヤの見直しを行い運行している。 ・無料デーともあわせ、地元説明会や広報等を通じPRに努める。
中野ハイヤー株式会社 株式会社山田タクシー 長電タクシー株式会社 (共同運行)	お出かけタクシー 中野・高丘・平野・延徳地域	・利用促進を図るため、市内全世帯、基幹病院、飯山駅、信州中野駅等への「交通マップ/時刻表」の配布、「予約お願い券」の発行、老朽化した停留所の整備を行った。 ・住民の意識改革を図るため、財政負担等の数値データを公表した。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適正に実施された。	A ・事業が計画に位置付けられた目標を達成した。 【1日あたり利用者数】 目標…3.0人 実績…3.7人	・目標を達成しているが、一層の利用促進を図るため、引き続き広報等を通じPRに努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成30年12月28日

協議会名:	中野市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>生活交通確保維持改善計画では、中野木島線、上林線、菅線(旧菅・角間線)、合庁線、永田線を基幹バス路線と位置付け、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーは枝線バス路線と位置付けている。枝線バス路線は、集落内を細かく回り、自宅近くから目的地若しくは、鉄道、基幹バス路線へアクセスし、利用目的は、通勤・通学・通院・買物と多岐にわたる。1便当たりの平均利用者数は決して多くはないが、日常的な生活の足としている利用者がいる。</p> <p>児童・生徒や高齢者等のマイカーを持たない人にとっては、生活の足として必要不可欠な路線であり、タクシー以外の代替する公共交通手段が存在しないことから、立ヶ花線、ふれあいバス、お出かけタクシーを「地域内フィーダー」と位置付け、確保・維持して行く必要がある。</p> <p>タクシー以外の公共交通を利用したくても、近くに駅やバス停がなく利用できない「利用不便地域」の解消を目指し、児童・生徒や高齢者等の中心市街地への移動支援を基本とし、「利用しようと思えば利用できる環境」を構築することを目的とする。</p>